

# 平成31年産も引き続き 主食用米の適正生産に取り組みましょう！

平成30年産主食用米の需給調整については、全国の生産者の努力により需給が引き締まり、米価は安定してきています。

一方、米の需要量は引き続き減少していることから、米価の下落を防ぐため、引き続き需要に見合った適正生産が必要です。



## 食生活の多様化などにより米の需要量は減少

米の需要量は、食生活の多様化や少子・高齢化に人口の減少も加わり、今までの全国の需給見通しでは、年8万トンとされていた減少量は、年10万トン（水田約18,000ha相当分）に拡大しています。

※一人当りの年間米消費量

S37年(最高年) 118kg/年 → H29年 54kg/年

【主食用米の需要量の推移】

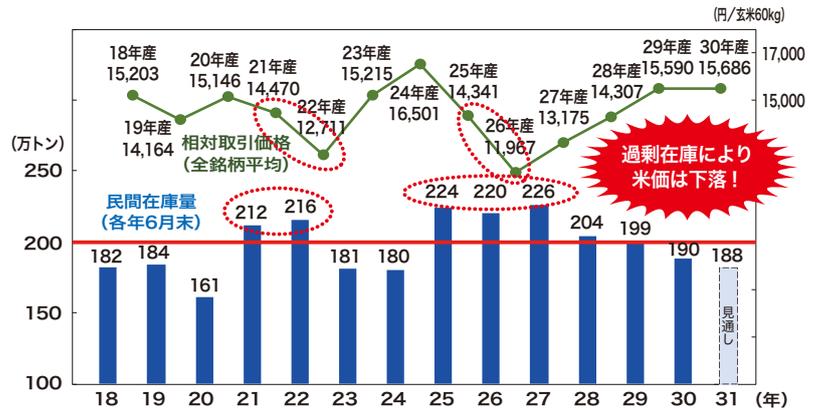


資料：農林水産省「米をめぐる状況について」

## 米の在庫量が200万トンを超えると米価は下落

生産者の努力により、民間在庫量が引き締まり、米価は安定していますが、右のグラフのように、需要を上回る作付けにより民間在庫量が増加した年は、米価は下落する傾向にあります。

【米の相対取引価格と民間在庫量の推移】



資料：農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

**米価の下落を防ぐためには、主食用米の需要に見合った生産と実需者との結び付きによる安定取引が必要です。**



## 農業再生協議会からのお願い①

- ◆農業再生協議会では、引き続き米の適正生産に取り組むため、国の需給見通しを踏まえた『主食用米の生産の目安となる数量（目安値）』を生産者の皆さんにお知らせします。
- ◆平成31年産の目安値は、国が計算したシェアを実態に合わせて見直したことにより、前年産に比べて増加していますが、これは、本県の需要そのものが増加に転じたものではありません。生産者の皆さんは、引き続き『目安値』に沿って適正生産に取り組んでください。
- ◆米の需要量が減少する中で、実需者との結び付きの強化や安定取引の拡大に向けて、複数年・播種前契約を進めましょう。



## 農業再生協議会からのお願い②

### 将来を見据えて、水田農業の体質強化を進めましょう！

農業再生協議会では、**水田農業の所得向上**と**経営発展**に向けて、生産者の皆さんと一緒に「**水田農業トリプルアップ運動**」に取り組みます。

#### ① 水田経営の複合化【競争力のアップ】

- 加工・業務用野菜の導入など経営の複合化の推進
- 麦・大豆等の基本技術の徹底による収量・品質の向上、2年3作の推進による本作化
- 国の交付金制度の活用による加工用米、飼料用米、輸出米などの生産拡大

【水田経営の複合化に取り組んだ場合の所得比較(試算)】

水 稲	38,304円/10a
業務用キャベツ	90,700円/10a
白ねぎ	212,000円/10a
ジュース用トマト	206,800円/10a
ブロッコリー	197,320円/10a
業務用たまねぎ	95,285円/10a

#### ② 県産米の品質向上・オリジナル品種のブランド化【ブランド力のアップ】

- 1等米比率全国1位を達成するため、プロジェクトチームで地域の課題を分析・解決策を実践
- 「風さやか」の作付拡大・品質向上のための技術対策とPR活動の展開
- 実需者ニーズの高い麦・大豆等の安定生産・作付拡大

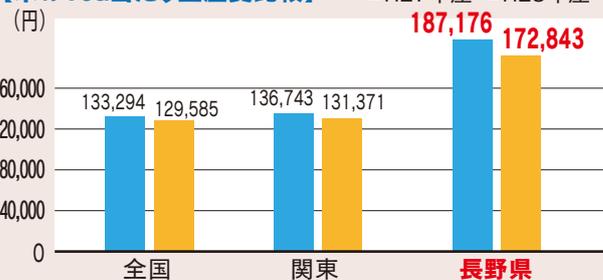
【1等米比率の全国順位の推移】

年産	H27	H28	H29	H30
順位	2位	2位	1位	2位
比率	96.1%	97.4%	96.3%	97.0%

#### ③ 徹底した生産コストの削減【収益力のアップ】

- AI・IoT技術を活用したスマート農業技術の実装を加速化
- 「トヨタ式カイゼン手法」により、生産工程の改善活動を支援
- 省力・低コスト技術の積極的な導入
- 農地中間管理事業の積極的な活用等による担い手への農地集積の推進

【米の10a当たり生産費比較】



- ★米価の安定に向けて皆で適正生産に取り組もう！
- ★今まで以上にJAや集荷業者などと意見交換や情報を共有して米生産を進めよう！
- ★園芸作物の導入やコスト削減により経営を強化しよう！
- ★地域農業の現状を踏まえ、今後の水田活用や効率的な農業生産のあり方などについて、皆で話し合いを進めよう！

◆詳しくは、最寄りの地域農業再生協議会(市町村、JA)へお問い合わせください。

### 長野県農業再生協議会

構成員：県、JA長野中央会、JA全農長野、食糧集荷協同組合、市長会、町村会、農業会議、農業開発公社、NOSAI長野、原種センター、信州水田農業経営者会議、農業経営者協会、農業士協会